

令和7年度

自己点検・評価書  
(学校評価報告書)

大阪教育大学附属高等学校平野校舎

## 1 附属高等学校平野校舎の現況

### (1) 学校名

大阪教育大学附属高等学校平野校舎

### (2) 所在地

大阪市平野区流町 2-1-24

### (3) 学級数・収容定員

9学級（1学年3学級） 収容定員 360人（1学級40人）

### (4) 幼児・児童・生徒数

345人（男子133人・女子212人）

### (5) 教職員数

校長(併任)1、校舎主任(併任)1、副校長1、主幹教諭1、教諭21(うち任期付教諭4)、  
養護教諭1、中学校併任教諭3、非常勤講師11、ALT1、事務補佐員5、用務員2(うち中学校併任1)

## 2 附属高等学校平野校舎の特徴

1学年3クラスの小規模校である特徴をいかし、生徒一人ひとりの個性を伸ばし、幅広い学力の向上、自主自立の精神の涵養に取り組む。文部科学省の「ワールド・ワイド・ラーニングコンソーシアム構築支援事業・拠点校」に指定され、国内外の高校や大学、関係機関と連携したカリキュラムとあわせて、多様性を尊重し、グローバルな課題解決に向けて行動するイノベティブなグローバル・リーダーの育成に取り組んでいる。

## 3 附属高等学校平野校舎の役割

- (1) 大阪教育大学と連携し教育研究に取り組むとともに、平野五校舎の共同研究を進める。
- (2) 本学の教育実習機関として実習生を受け入れ、適切な指導を行う。
- (3) 教育に関する理論を研究し、教育実践に役立てる。
- (4) 本学が行う現職教員の再教育の一端を担う。

## 4 附属高等学校平野校舎の学校教育目標

- (1) 学力の向上をめざす健全で創造性豊かな人格の育成
- (2) 国際的視野に立ち自他を敬愛する人格の育成

## 5 附属高等学校平野校舎の学校教育計画

### ○学校教育計画

①生徒の「学力」と「生きる力」を育てる活動を各教科・分掌で工夫し、実践する。また、授業・HRならびに学校行事・部活動において生徒の自主自立・人権尊重の精神を育むさまざまな支援・指導を行う。

今年度 a. 授業を通して教科のもつ魅力や専門性を伝え、生徒の知的好奇心を高める。

- b. 生徒が主体となる場や自己を振り返る場をつくり、基本的な生活習慣を確立させ、未知の領域にも怯まず、自ら考え続けることが出来る力を養い、自己教育力を育成する。

②生徒が、様々な困難を乗り越えて、自己の分析に基づいて描く自分になるようとする力を養う教育活動を推進し、生徒理解に基づいたきめ細かな進路指導に取り組む。

今年度 a. 生徒の将来の目標と生徒を取り巻く社会の状況を含めた進路について意識を深めさせ、一人一人の進路実現をサポートする効果的な情報活用と組織的な指導を進める。

③一人ひとりを大切にする校風と少人数制という恵まれた学習環境を生かし、健全で創造性豊かな人格を育むとともに、自他を敬愛し協働する力を持った世界で活躍するグローバルリーダーを育成する取り組みを行う。

今年度 a. WWLプログラムである「グローバル探究」「海外研修」「国内外の連携機関との学び」を通し、グローバルリーダーに求められる資質・能力を育成する。

④平野五校舎における共同研究と教育実習の充実を図り、セーフティプロモーションスクール（SPS）認証への取組を推進する。

今年度 a. 本校の実践を広く地域に発信するとともに、教育実践・研究活動での平野五校舎、他附属、大学、教育委員会との連携を深める。

6 附属高等学校平野校舎 令和7年度重点目標(評価項目)、具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	<p>(1)学力の向上をめざす健全で創造性豊かな人格の育成</p> <p>(2)国際的視野に立ち自他を敬愛する人格の育成</p>
学校教育計画	<p>①生徒の「学力」と「生きる力」を育てる活動を各教科・分掌で工夫し、実践する。また、授業・HRならびに学校行事・部活動において生徒の自主自立・人権尊重の精神を育むさまざまな支援・指導を行う。</p> <p>今年度 a. 授業を通して教科のもつ魅力や専門性を伝え、生徒の知的好奇心を高める。</p> <p style="padding-left: 2em;">b. 生徒が主体となる場や自己を振り返る場をつくり、基本的な生活習慣を確立させ、未知の領域にも怯まず、自ら考え続けることが出来る力を養い、自己教育力を育成する。</p> <p>②生徒が、様々な困難を乗り越えて、自己の分析に基づいて描く自分になろうとする力を養う教育活動を推進し、生徒理解に基づいたきめ細かな進路指導に取り組む。</p> <p>今年度 a. 生徒の将来の目標と生徒を取り巻く社会の状況を含めた進路について意識を深めさせ、一人一人の進路実現をサポートする効果的な情報活用と組織的な指導を進める。</p> <p>③一人ひとりを大切にする校風と少人数制という恵まれた学習環境を生かし、健全で創造性豊かな人格を育むとともに、自他を敬愛し協働する力を持った世界で活躍するグローバルリーダーを育成する取り組みを行う。</p> <p>今年度 a. WWLプログラムである「グローバル探究」「海外研修」「国内外の連携機関との学び」を通し、グローバルリーダーに求められる資質・能力を育成する。</p> <p>④平野五校園における共同研究と教育実習の充実を図り、セーフティプロモーションスクール(SPS)認証への取組を推進する。</p> <p>今年度 a. 本校の実践を広く地域に発信するとともに、教育実践・研究活動での平野五校園、他附属、大学、教育委員会との連携を深める。</p>

年度重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (*評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を踏まえた 改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
① a 授業を通して教科・科目のもつ魅力や専門性を伝え、生徒の知的好奇心を高める。	教員研修の実施 「各教科・科目」「総合的な探究の時間(グローバル探究)」「WWLのプログラム」について、カリキュラムマネジメントの視点にたった連携と改善の強化	各教科・科目の授業について教員研修・探究学習研修会を3回行い、「教科における概念型探究の学習と指導」と中教審教育課程企画特別部会の論点整理から次期学習指導要領の基本的な考え方について理解し、探究学習の進め方の認識を深めた。	カリキュラム・マネジメントの在り方 質の高い探究的な学びの実現	A	次年度以降も、カリキュラムや教材の検討を継続し、改善していくことが重要である。	A	PDCA サイクルでステップアップを繰り返し改善を進める。
	学習指導要領の趣旨に基づく授業の工夫(生徒が主体的に取り組む授業、探究活動を導入した授業)への組織的な取組	生徒の知的好奇心を喚起する授業や探究活動を組み入れた授業を各教科で検討し実践した。その成果は教員間で共有するとともに、本校の研究発表会及び平野五校園共同研究発表会(11月)、附属教員と大学教員の研究交流会(3月)等において発表・発信した。	探究活動等を組み入れた授業改善は4年目であり、過去の取組をふまえながら各教科に実践を広げた。	A	4年間の成果と課題を整理・共有し、今後お授業づくりの指針の指針にされるとよい。	A	各教員が感じられた成果や課題を出し合いながら、学校としての成果と課題を共通に認識しあい、よりよい授業づくりに取り組んでいく。
	教員の授業力の向上 * 学校診断アンケート(生徒)の授業に関する肯定的回答 80%以上	*「生徒が意欲的に取り組むよう授業を工夫している」肯定的回答 81.9%(昨年度 80.6%) や「授業では自分の考えをまとめたり発表したりする機会がある」肯定的回答 90.3% (82.1%)「学校の授業内容や進度は、生徒の力に合っている。」肯定的回答 73.5% いずれも例年並みの数値を維持している	教員間の授業見学と評価シートによる意見交換 平高スタンダードの確立	B	教員相互の授業見学と意見交換は重要。 継続してほしい。	B	教員の専門性を高めるとともに面談や寿号アンケートなどを通して、生徒の声を聞き、分析し、より良い授業に改善していく。
	三観点による評価、主体性の評価に関する研究 * 主体性を評価するルーブリックの改善と活用	三観点による評価の工夫について集約するとともに、平野五校園共同研究において「主体性共通ルーブリック」を継続的に活用し最適化するように取り組んだ。	五校園共通ルーブリックのさらなる実践活用	B	教科間の評価方法の共有を、さらに進めることが重要である。	B	五校園共同研究における高校教育のあり方を分析し、研究を進める。

<p>① b. 生徒が主体となる場や自己を振り返る場をつくり、基本的な生活習慣を確立させ、未知の領域にも怯まず、自ら考え続けることが出来る力を養い、自己教育力を育成する。</p>	<p>生徒主体の学校行事を通じた自主自立や人権尊重の精神の涵養 * 学校診断アンケート(生徒)の自主性に関する肯定的回答、及び、講演や体験活動等授業以外の学習の機会に関する肯定的回答 90%以上</p>	<p>文化祭、体育祭、球技大会等の学校行事は、生徒会や各委員会等の生徒が中心となり企画・運営された。異学年の生徒が協働して課題を解決する過程を通して、自主自立の精神や人権尊重の精神が涵養・継承されるよう組織的にサポートした。 また、生徒指導部と人権教育推進委員会が中心となり、ホームルームや外部講師による講演、全校集会での講話等を通し、人権を考える機会の充実を図った。 *「学校は生徒の自主性を大切にしている」肯定的回答: 91.9%(昨年 93.5%) *「学校は講演や様々な体験活動等、授業以外の学習の機会がある」肯定的回答:89.9%(90.3%)</p>	<p>生徒会や各委員会では、昨年度の成果と課題を踏まえながら企画・運営するようサポートした。また、教員の働き方改革を進める中で、出来る限り生徒の活動時間を確保するよう工夫した。 自主自立の真の在り方</p>	<p>A</p>	<p>「学校行事」や「外部講師による授業」等充実に取り組まれていることがよくわかり、是非来年度以降も継続して欲しい。</p>	<p>A 引き続き、生徒の企画・運営による学校行事の活性化に向けて支援する。人権尊重の精神の涵養については、人権委員会と生徒指導部が連携し、外部人材の活用も含めて計画的に実施する。</p>
	<p>教員の働き方改革を進めつつ、学校行事や部の活動時間を確保する。 * 学校診断アンケート(生徒)の学校行事等に関する肯定的回答 90%以上</p>	<p>部活動指導員の活用や当番制の導入等により、生徒の活動時間を確保しつつ、休日や居残り等の教員負担を軽減させられた。 *「学校は学校行事や部活動等生徒の活動が活発になるようにしている」肯定的回答: 76.5%(昨年 82.1%)と低い数字となっている。</p>	<p>生徒指導部が中心となり、当番制を活用した時間確保を工夫した。 * 部活動の活性化</p>	<p>C</p>	<p>部活動指導員の活用がさらに有効に定着できるように成果と課題を検証するとよい。</p>	<p>B 次年度より生徒からの要望の強かった野球部(軟式)を新設する。働き方改革もあり、当番制や部活動指導員の制度の検証を行い、より有効に活用するよう検討していく。</p>

② a. 生徒の将来の目標と生徒を取り巻く社会の状況を含めた進路について意識を深めさせ、一人一人の進路実現をサポートする効果的な情報活用と組織的な指導を進める。	進路研究部によるガイダンス機能の充実 外部講師・卒業生によるガイダンス、大学見学会の充実 * 学校診断アンケート(生徒)の進路指導に関する肯定的意見 90%以上	進路ガイダンスを、生徒を対象に、年間3年生10回、2年生3回、1年生1回実施した。 また、保護者を対象に、年間3年生3回、1、2年生各2回(PTAとの連携含む)実施した。 当初の予定どおり各学年で実施した。  *「学校では進路について考える機会がある」の肯定的意見 93.6%(昨年 90.3%)	2年生の模試結果を分析し、今後の学習の方向性を共有し、意欲喚起させた。 生徒の進路希望に沿うように講師・卒業生を選した。	A	進路指導の手厚さは、高く評価できる。 生徒の学習意欲と目標意識の継続と学習習慣の定着が重要。	A	幅広い学力層の生徒に対応していくよう一層工夫しながら継続していく必要がある。
	第3学年「グローバル探究Ⅲ」を活用した進路指導と、大学進学に向けた進路指導の充実	一人一人の進路に関する相談機能や個別の面接指導・論文指導を充実させ、多くの生徒が、進路選択や総合型選抜入試等での学習を生かすことができた。	推薦型入試が増える中、グローバル探究Ⅲを活かした更なる進路設計。	A	WWLの取組によって、それぞれが明確に進路を決定しており、結果に反映されている。	A	次年度も本年度のカリキュラムを検証し、改善して行く必要がある。
③ a. WWLプログラムである「グローバル探究」「海外研修」「国内外の連携機関との学び」を通し、グローバルリーダーに求められる資質・能力を育成する	「グローバル探究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」(総合的な探究の時間)のカリキュラムの改善と充実 * 生徒の外部機関での発表 5件以上、海外の高校生との共同研究 1件以上 高校生国際会議(WWLのプログラム)の生徒による自主的な企画・運営	WWL推進委員会と学年が協働し、昨年度の課題を改善した年間カリキュラムを作成し授業を実施した。 * 生徒の外部機関での発表7件、企業と連携した取組み、海外高校および国内高校との交流活動を行えた。	グローバル探究で活動した内容を生徒は主体的に発表できた。 より多くの発表の機会とその振り返りにより、質の高い探究活動につなげる。	A	生徒の外部機関での発表や企業との連携等の充実が図られており、素晴らしい。	A	このような素晴らしい取組を積極的に公開し、学校の魅力発信に取組む。
	「海外研修」を通した学びの充実 * 生徒アンケート満足度100% 国内外の連携機関との学びの充実 * 大阪教育大学教員研修留学生との学びを10回以上設定	「ベトナム研修(2年全員)」を計画どおり実施した。現地の大学と交流することができた。 「オーストラリア語学研修」「カンボジア研修」を実施。現地高校生や大学生とも交流し、社会課題について学びを深めた。	「海外研修」では、その目的の達成のため、事前学習と事前打合せと振り返り、今後の在り方の検討。	A	いずれの海外研修もWWL事業としての目的を達成している。	A	海外研修では、学びを深めるプログラムをさらに検討していく。

④ 平野五校園における共同研究と教育実習の充実を図り、セーフティプロモーションスクール(SPS)認証への取組を推進する。	平野五校園「共同研究」を推進する。	大学と連携しながら、「新しい社会を創造する子ども一人ひとりの育成を目指した教育課程の実施と教育評価」の2年目として、主体性が働く課題設定能力の育成と学習評価のモデル開発を目指して、をテーマに進めた。五校園が協働できる特色をいかした研究と、発表会ができた。	参観者にとって意義のある研究発表会のあり方	A	五校園共同研究・連携型教育実習は、平野地区の特色であり、継続して欲しい。	A	平野地区の特色を発揮した研究となるよう、他校園と連携・協働し研究活動を発展させる。
	平野五校園「連携型教育実習」を推進する。	五校園の各教育実習生が、他校園の教育実践についても体験できる機会を設定、実習を行った。	各校園の教育方針とそれぞれに応じた指導・支援のあり方について理解を深める実習	A		A	実習後の実習生の評価を検証し、実習内容の工夫・充実に取り組む。
	SPS 認証に向けた準備を進める。	五校園の合同防犯訓練・防災訓練、防災士による五校園教員合同研修会の実施。平野区役所等の関係機関・地域・保護者と連携した防災プロジェクトを総括し、SPS 認証を達成できた。	関係機関・地域・保護者との連携について整備を進めた。 SPS 認定校として取組みの推進	A		SPS 認証は大変素晴らしい。五校園が連携して取組まれるのを期待する。	A